

第二部会（第26期・第3回）議事録

令和6年4月23日（火）9：30～11：45

日本学術会議庁舎 6階6-A会議室

出席者：（敬称略）60名

現地（49名）：五十嵐、磯、大越、岡村、奥田、奥野、尾崎、金井、狩野、神田、北島、木村（直子）、木村（通男）、熊谷、後藤（英司）、五斗、小林、佐々木、澤、斯波、杉山（淳司）、高橋（尚人）、高橋（良輔）、高山、竹中、玉腰、土井、中嶋、西川、西谷、西村、野田、野出、樋田、深田、藤井、堀、眞鍋、村上、森、森山（啓司）、安友、山崎、山田、山本、柚崎、米田、渡辺（京子）、渡辺（雅彦）

オンライン（11名）：秋下、磯部、加藤、後藤（由季子）、杉本、杉山（久仁子）、竹山、寺崎、三谷、森山（美知子）、山口

（事務局：若尾、増田、松本、上野、萩原）

1. 審議事項

- (1) 総会での「日本学術会議のあり方に関する検討」及び「アクションプラン」に関する議論について

二部として不足している情報の共有、疑問点の解消と確認を目的とした議論を行ないたいとの冒頭説明が部長よりなされた。

日学の在り方に関しては、法人化に関しては中立の立場で内閣府との話し合いに臨むことが確認され、会員選考や財政面での問題点などについて意見が出された。

アクションプランに関しては、GSTIと日学との役割分担に関してや、意思の表出のフォローアップの具体策などについて意見が出された。

2. 報告

- (1) 総会での「活動報告」について

総会での報告に加えて報告する点はなかった。

- (2) 委員会、分科会等の活動報告

機能別委員会および課題別委員会に関しては、委員会メンバーから簡単な追加説明がなされた。分野別委員会に関しては、資料1に基づいて各委員長から説明がなされた。

① 機能別委員会

選考委員会

神田部長より簡単な追加説明がなされた。

科学者委員会

尾崎副部長より簡単な追加説明がなされた。

科学と社会委員会

奥野幹事より簡単な追加説明がなされた。

国際委員会

掘幹事より簡単な追加説明がなされた。

② 課題別委員会

防災減災学術連携委員会

二部からは担当なし

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会

狩野委員より簡単な追加説明がなされた。

③ 第二部附置分科会

生命科学系学術雑誌問題検討分科会が設置されたことが報告され、小林委員から追加の説明がなされた。

④ 分野別委員会

分野別委員会委員長から各2~3分で報告が行われた。

基礎生物学委員会 <小林委員長>

統合生物学委員会 <北島委員長>

農学委員会 <中嶋委員長>

食糧科学委員会 <高山委員長>

基礎医学委員会 <五十嵐委員長>

臨床医学委員会 <山本委員長>

健康・生活科学委員会 <西村委員長>

歯学委員会 <村上委員長>

薬学委員会 <奥田委員長>

3. その他

(1) 今後の第二部の活動について（夏季部会、学術フォーラムほか）

資料2に基づいて、夏季部会についての討議がなされた。神田部長から二つの案が提案されて会員による意見交換が行われた。最終的に、第二部の総意として地方開催の方針となった。開催日並びに開催場所などについては今後早急に具体化することとなった。

(2) 2024年度の第二部における予算執行方針について

資料3に基づき、予算執行についての方針が説明され、昨年同様、活動の多くはWebでの開催をベースとすることとなった。

(3) 学協会連合との連携について

学協会連合との連携強化について、学協会との共同シンポジウム開催など目に見える形での連携強化を進めてほしいとの説明がなされた。

(その他)

事務局より、次回以降の部会会合では、資料をペーパーレス化する旨提案があった。第二部では、これを学術会議の方針として了承し、事務局に対して非常用としての印刷物の用意は継続するよう指示した。

またハイブリッド会議の実施にあたり、電源確保やWiFi環境の整備をしてほしいとの意見が出され、第二部事務局として対処することとなった。

事務局から予算執行の補足説明がなされた。

以上